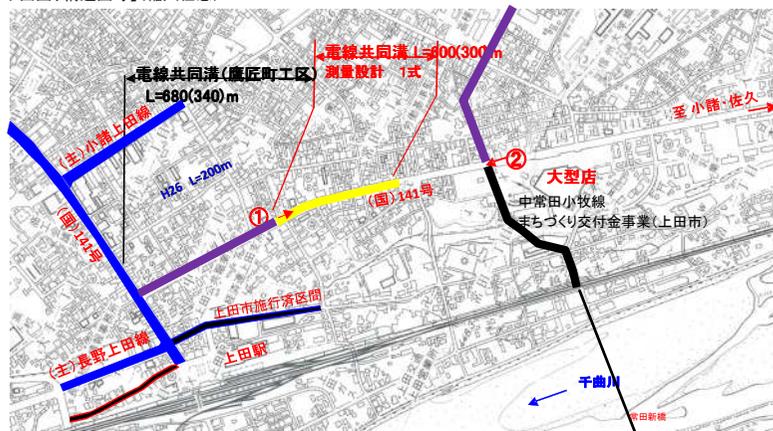


(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		無電柱化推進事業		路河川名等	(国)141号					
事業毎の通番		2	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	常田(ときだ)				
事業概要	事業目的	当箇所は、JR上田駅と東御市を結ぶ主要幹線道路であり、年間を通じて150万人以上の観光客が訪れる上田城の玄関口である。当該箇所を歩き交う歩行者、自転車数は、平日で933人・台/12h以上を数え、電線類の地中化を実施することにより、安全で快適な通行空間の確保、都市景観及び防災面の向上を図ると共に、商店街の活性化が期待される。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	農山村産業クラスター形成PJ		事業実施の根拠法令等	道路法 電線共同溝の整備等に関する特別措置法					
	関連する事業、計画等	上田市計画区域マスタープラン、中心市街地活性化基本計画								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	歩行者、災害時の通行車両他								
	着手年度	平成28年度	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	2.71	国庫	165,000	その他		県債	
	全体事業内容(主な工種)	電線共同溝設置 L=300m(整備延長600m)			300,000					135,000
	年度事業内容(主な工種)	地形測量、電線共同工概略設計			6,500	3,575				2,925
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道空間を占有している電柱の地中化により、快適・安全な歩行空間が得られる。 無電柱化により、災害時等の電柱転倒、電線垂れ下がりによる交通障害の発生がなくなる。							
		間接的効果(定量的・定性的)	道路空間の圧迫感解消により、沿道の良好な景観が得られる。 良好な景観、快適な歩行空間の形成により、市街地の活性化が見込める。							
評価の視点	必要性	計画交通量15,570台/日、現況歩行者交通量559人/日、現況自転車交通量374台/日と非常に多く、円滑な通行、安全な歩行空間の確保のため、無電柱化が必要である。							評価	A
	重要性	当該地は、上田市都市計画において、近隣商業地域に位置付けられ、上田市計画区域マスタープランによりエリア一体が市の中心的拠点と位置付けられており、安全な歩行空間の確保や良好な景観形成が重要である。また、景観法第8条第4項第2号の規定に基づく行為の制限の基準として、景観形成基準を定めている。							評価	A
	効率性	費用対効果は1.5以上であり、事業期間は7年となる。							評価	B
	緊急性	「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく「中心市街地活性化基本計画」により面的な整備がなされているなか、上田駅、上田情報ライブラリー、上田高校、上田合同庁舎、上田市役所、上田消費者センター、上田市立図書館等の公共施設が立地しており、緊急的に事業を行う必要がある。							評価	B
	計画熟度	上田市中央まちづくり協議会、南天神町みどりの会により、清掃や街路樹の管理がなされている。							評価	C
	部意見	近接する施工中の鷹匠町地区と一体的に整備することにより面的な良好な景観の形成、歩道空間の確保が行え、緊急輸送路であるため早急に事業の実施が必要である。	行政改革課意見	無電柱化により安全で快適な通行空間の確保、都市景観及び防災信頼性の向上を図ることから、必要性、重要性が高い。	評価結果	○	総合評価	B		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



歩道空間に電柱が林立し、上空、商店街の視界を電線が占有している。災害時には、電柱転倒による交通マヒ、住民活動に支障が生じる。

事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	全国的に欧米諸国に比して電線地中化の遅れにより、安全で快適な通行空間の確保上、都市景観上、都市防災上及び安定供給上の支障が生じている。 当該箇所においても、上田駅、上田市役所に近接するなか、一部区間に電柱、電線が設置されており、安全で快適な通行空間確保、都市景観向上、都市防災のため、無電柱化事業が必要とされる。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	道路アダプトシステムにより、清掃や街路樹の管理がなされている。	
	③事業説明等の経緯	今後上田市や地元区を対象にした事業説明会を実施し、計画を周知していく	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく「中心市街地活性化基本計画」により面的な整備がなされている。また、本事業により、整備済の無電柱化事業区間がつながり、相乗的に効果が発揮される。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	歩道上に樹木が存在している箇所もあり、その扱いについて地域住民とよく話し合う必要がある。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	無電柱化による沿道空間の圧迫感解消により、良好な景観を形成し、商業活動等の地域活性化に寄与する。	
	⑦その他	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36.393824 東経:E 138.257135